

令和5年度 学校評価表															
学校教育目標		志を持ち未来を拓く子どもの育成 「自ら学ぶ」													
a ミッション	主体性・協働性を育む小中連携教育を通じた探究的な学習の推進				a ビジョン	○基礎・基本を大切に、確かな学力と健やかな心身を育む学校 ○学びかたを工夫し、伝える力、受容する力を育む学校 ○進歩への向上意識を高める学校 ○地域と保護者が共に育て支える学校—土壺小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する—						【取組評価】 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60			
評価計画				自己評価						改善計画					
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 達成率	2月 達成率	h 達成率	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二学期 評価	l コメント	m 改善案			
土壺っ子太鼓の精神の継承 過去・現在・未来の土壺っ子の精神を受け継ぐ	自ら学ぶ子	基礎・基本の定着と4つの資質・能力「主体性」「協働性」「つながる知識」「試行錯誤力」の向上	<ul style="list-style-type: none"> 単元テストの通過率 国語・算数・理科・社会 90点以上の児童の割合 	80	81.2%		101.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月は84.4%、5月は79.6%6月は79.8%、7月81.2%で、全体では80.6%であった。どの月も昨年度を上回ることができた。授業参観等での授業内容の質の向上に学校全体で取り組んできた成果と考える。しかし、2割の児童は、学力の定着が難しく、個に応じた指導が必要である。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 先生がお互いに授業参観しあい、全教職員で学ばれていることがすばらしい。感謝する。 学力定着の難しい2割の児童に対する具体的な取り組みをお祈りしたい。 個に応じた指導を工夫していただいているが、ありがたい。 十分な成果だと思ふ。日々の学習の成果だと思ふ。 長江中学校区で授業の記録等を研究していることは素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に授業参観を行い、授業で大切にしていることを共通認識し、授業の質を高める。 教科担任のブロック会議で出た成果や課題を全体で共有し、全教職員で系統的、継続的に授業改善に努める。 家庭学習の工夫 読書活動の充実 探究的な学習の推進 教科担任制の導入による学習指導の充実 			
			<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の正答率 国語・算数+10 	75	67.6%		90.1	B	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の正答率+10の達成率は、国語は70.4%、算数は64.8%、全体では67.6%であった。全国の平均点に比べると本校の平均点は国語科では、+11.8、算数科では+14.5であった。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 結果に対する取り組みが適切である。時間をかけて進めていってほしい。 全国平均より点数が高いのですが、それに甘んじることなく上を目指してほしい。 長江小学校区と一緒にテストの分析を行い授業改善に努めているのが素晴らしい取り組みである。 	<ul style="list-style-type: none"> テスト分析を行い、課題を見付け、教職員全体で課題を把握し、課題を克服するための授業改善について話し合い、今後の授業に生かす。 テスト分析を有効に、個別の課題に応じた学習に取り組みさせる。 話し合う時間だけでなく一人一人が自分の考えを伝えたり書いたりする時間を確保し、個々の成長や学びに役立てていく。 課題のある児童に個別の指導を行う。 個別最適な学びの授業研究を行う。 テストの発見との交流をし、テストに結びつける姿勢の向上を図る。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 尾道市学力定着実態調査の正答率 1、2年(国語・算数) 目標値+8 3年(国語・算数) 目標値+10 4年(国語・算数) 目標値+10 5年(国語・算数) 目標値+10 6年(国語・算数) 目標値+10 総合学力テストの正答率(1月) 目標値+10 	80											
			<ul style="list-style-type: none"> 推薦指定図書読書の読破率 低学年20冊 中学年16冊 高学年8冊 ※達成目標 1学期 1/4 2学期 3/4 3学期 4/4 学期別の読書目標ページ 低学年:12冊(毎月) 3年生以上:300ページ(毎月) ※達成目標 1年間で3000ページ達成 	80	推薦 87.1%		108.8	A				<ul style="list-style-type: none"> 1学期の推薦指定図書の読破率は87.1%、読書目標ページの達成率は4、5月91.3%、6月86.9%、7月83.9%全体では87.4%だった。推薦指定図書の読破率、読書目標ページの達成率とも目標を達成できた。本年は読書週間を位置づけたり、図書教諭に本の紹介をしてもらったり、担任から読書への声かけや価値付けを定期的に行っていることで、目標を達成することができた。また、学期ごとの目標達成者の表彰も児童への意欲付けとなった。 	6	<ul style="list-style-type: none"> いつも高い目標であるにもかかわらず、高い達成率で素晴らしいと思う。 本を紹介し合うということは、文章を読んで自分の意見をまとめ、発言するという貴重な機会だと思ふ。続けていってほしい。 本は大切な反響になると思う。 十分な成果である。習慣化されているのが素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に推薦指定図書週間を設け、周知していく。 毎月、図書教諭に推薦指定図書の本の紹介をして、読書の啓発を図る。 「本の感想コーナー」を設け、お互いが本の紹介をしあうことで、読書の啓発を図る。
思いやりのある子	共感的 人間関係の育成	<ul style="list-style-type: none"> 【継続方策】 ○主体的な挨拶の励行 (友達・先生・他学年・地域の人に進んであいさつをする) ○主体的・協働的清掃活動の実施 (自分の役割を果たす 班のメンバーと協力する) 【新規方策】 ★縦割り班活動・児童会行事等の集会活動の充実(異学年でかわり、他者を思いやる心を育てる) 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体性」「協働性」に関するアンケート 肯定的評価の平均(3~6年生) 	80	主体 93.7%		117.1	A	<ul style="list-style-type: none"> 「主体性」「協働性」に関するアンケートの肯定的評価は、それぞれ93.7%、92.3%だった。どちらも高い水準で、目標を大きく上回ることができた。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 十分な成果である。習慣化されているのが素晴らしい。 公民館と連携してゲストティーチャーを活用することは多いに活用すべきだと思う。(コミュニケーション力から) 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャー、外部講師を積極的に活用することで、主体性や協働性を高める。 探究のサイクルを意識した学習計画を子供たちと一緒に立てる。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 習慣化できた児童の肯定的割合 (児童アンケート4段階の3以上) 	85	96.9%		113.9	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月97.5%、5月96.9%、6月96.5%、7月96.7%であった。昨年度からの継続的な指導により、自ら進んであいさつをする子が習慣化されている児童が増えた。また、下校前に行方挨拶の振り返りを行うことで1学期を通して意識してあいさつに取り組むことができた。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みが明けてより挨拶が習慣できるようにフォローしてほしい。 あいさつの習慣化に協力してもらいたい。相手の目をみて挨拶できるように指導してほしい。 習慣化は非常に重要である。習慣化するまでが大切だが継続して指導してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期実施できなかった児童会によるあいさつ表彰を行い、価値づけしていく。また、毎月1日のあいさつの日には、生徒指導部を中心に放送を行い、児童に周知していく。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 「誰とでも、協力して、活動することができた児童の割合」 	85	97.0%		114.1	A	<ul style="list-style-type: none"> 4月98.7%、5月97.5%、6月95.8%、7月96.1%であった。主体的な清掃活動を行うために、2つの取組を行った。1つ目は、静かに協力して掃除をする姿を撮影し、給食時間中に映像を再生し、見学化して学習し、2つ目は、整備委員会が主体となり、主体的・協働的に掃除をしている班の表彰を行った。掃除が始まる予告の音楽が鳴り始めたら移動する児童が多く、掃除開始が遅れてしまうなどの課題が見られる。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 十分な成果だと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な姿を高めるために、1学期に引き続き、静かに時間いっぱい自分の役割ができている班に対して、整備委員会から表彰されるような取組をしていく。 教師による示範動画を作成し、正しい掃除の方法を周知していく。 掃除開始がそろそろように声をかけていくとともに、眼目から始めることの意味を再度考え、価値付けを行っていく。 			
元気な子 たくましく強い子	体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の主体性を引き出す授業づくり ○「早寝・早起き・朝ごはん」の徹底 ★栄養教諭と連携した食育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「体育・運動」に関するアンケート 肯定的評価 (児童アンケート5段階) 4 2 3 4 5 ①体を動かすことが好きか 85% ②体育の授業は好きか 90% 	①85 ②90	① 89.7%		105.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業においてスムーズステップにより指導を実施できたと言った教員は、78、1%であった。それに対する児童のアンケートでは①体を動かすことが好きかと言った児童は89.7%、②体育の授業が好きと言った児童は91.0%だった。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 先生方の工夫の成果だと思ふ。 アクティブチャイルドプログラムに興味がある。 暑いときだがしっかりと体を動かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み中に、体育の授業づくりについて研修に参加し、校内で共有し、体育の授業づくりの向上に努める。アクティブチャイルドプログラムを活用し、運動遊びを体育の授業に積極的に取り入れていく。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんのそれぞれについて習慣化できた児童の割合 (児童アンケート5段階) 1 2 3 4 5 1週間のうち5日できた児童 	早寝 79 朝ごはん 99.2 朝ごはん 90	早寝 89.3 朝ごはん 98.6		111.9	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、自分で目標設定を行い、目標設定に向けて行動することができたアンケートを行った。その結果、1学期は、早寝83、9%、早起き89.3%、朝ごはん98.6%であった。月別で見ると、4月が低かったが、5月がすべてこの項目において高くなっており、生活改善WEEKの取組の成果と考えられる。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 寝取り班活動は、土壺小学校らしい大変よい取り組みである。縦断交流や、コミュニケーション力が身にまわれば、効果的である。 4、5、6年生で、5年生が80%ほどで、高い数値なのを知りたい。 個人差があると思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期休業中に行った、アセスの分析・交流をもとに、支援が必要な児童に個別の声かけや学習支援などを行うとともに、安心して学習ができる環境を学校全体で行っていく。 			
地域と保護者が	コミュニティ・ スクールの実践	<ul style="list-style-type: none"> 【継続方策】 ○保護者の郷土愛を高める教育を行うために、地域人材・素材を計画的に教育課程に位置づけて実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ゲストティーチャーの活用」に関する児童アンケートの肯定的評価(3~6年生)児童の割合90%以上 	90	97.2		108	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域での学習は7回で、ゲストティーチャーの活用は19回で合計26回だった。昨年度に比べ、地域に出る回数が増えている。しかしゲストティーチャーの活用は増えている。昨年度は単元開発するためにたくさん地域に出たため、今年度には増えた。反対にコロナ収束により、ゲストティーチャーを招く機会が増えた。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 十分な成果だと思ふ。 仮校舎になったため、町へのフィールドワークが減ってしまったことは非常に残念である。 仮校舎になったが、町へのフィールドワークを続けてくれていることに感謝している。秋になり涼しくなってきた。また、ぜひ、商店街の方へ地域学習に来てほしい。 地域に出て、地域のことをしっかりと学んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域人材を生かした授業を行っていくと共に、新たな地域人材の発掘に努める。 今年度、活動したことを記録として残り、来年度の学年に引き継ぐようにする。 高学年においては、地域のフィールドワークを通して、子供に本当に考えたいと思った課題をもたせ、新たな单元を開発する。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 保護者評価4段階3以上の割合 (保護者アンケート) 運動会 学習発表会 	90	99.2		110.2	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果は、肯定的評価が99.2%であった。4(大変よかった)の評価が78.0%、3(よかった)の評価が21.2%で、1年のみ2(あまりよくなかった)で理由は書かれていなかった。3年ぶりの運動会で、保護者の関心も高く、子供達のがんばりを肯定的に受け入れてくださったり、子供達の演技に対する感謝や学校側への感謝を記述してくださった保護者が多かった。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の意見を知りたいので、今後いろいろな行事についてのアンケートをお願ひしたい。 十分な成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年ぶりの運動会であったが、コロナ禍で学んだことを生かして、午前中実施の運動会を行った。各学年で、児童の実態を踏まえた内容を考え、早めに取り掛かることで、児童の意欲を高めるとともに、完成度の高い演技を保護者の皆様に見ていただくことができた。学習発表会の発表に向けて、早め計画を立て、夏期休業中に内容を考え、少しずつ取組を進めていきた。 保護者席、敬老席の設置の仕方について、保護者からいくつかの声をいただいた。育友会とも連携しながら、保護者や地域の皆様にも満足していただけるように進めていく。 			
			<ul style="list-style-type: none"> 【継続方策】 ○働き方改革の推進 	① 100	月平均 262分 減少		87.5	A	<ul style="list-style-type: none"> 時外勤務平均時間は、前年同月比較で、4月1時間39分減少、5月2時間58分増加、6月6時間51分減少、7月10時間40分減少、合計17時間51分減少(月平均4時間22分減少)という目標を大きく超える結果であった。要因としては、大きな生徒指導対応がないこと、教科担任制が定着して来たこと、設定した退社時刻を意識して仕事をしたこと、会議の減少等を行ったことが考えられる。選択と集中ができておりと見えている。 	6	<ul style="list-style-type: none"> 難しいこともあると思うが、今後も健康第一で注力してほしい。 「昨年度より、勤務超過時間を1日1分減らす」運動は非常によい。小さな積み重ねが大切にでき、個人で抱え込まない、人に頼りやすい雰囲気作りが大切である。 4年生のクラスが多く、担任が大変なのではないかと思ふ。他の先生方も、無理のないように働いてほしい。 教員の過重労働が問題になっているので、みんなで協力して働きやすい環境を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期は、1学期とは違う忙しさがあることが予想できる。その中でも仕事の充実感を持つことができるようにするために、個人で抱えないことが大事である。子供の成長や困りごともしっかりと声を出して、コミュニケーションを取りながら、教育活動を進めていく。 			